

住宅用太陽光発電設備 系統連系申込書作成マニュアル

パワーコンディショナ：HQJP-R46-A1

北海道電力株式会社向け

ハンファ Q セルズジャパン株式会社

必要申込書類（北海道電力向け）

余剰電力を電力会社へ売電することを希望される場合、あらかじめ電力会社と余剰電力の売電契約を結ばなければなりません。そのために必要な申込書類および記入例について、ご案内いたします。

① 設備認定通知書（写）

再生可能エネルギーの固定価格買取制度における買取価格・買取期間の適用を受けるためには、設置する設備について経済産業大臣の認定を受ける必要があります。

【認定にかかる手続き・お問い合わせ窓口】

インターネットにより、設備認定サポートシステム（<http://www.fit.go.jp/>）を通じて手続きいただけます。

インターネット環境をお持ちでない場合は以下の窓口へお問い合わせください。

一般社団法人太陽光発電協会 JPEA 代行申請センター（JP-AC）

〔電話〕 03-5501-2001 〔受付時間〕 平日 9：20～17：20

② 低圧太陽光発電設備 系統連系・電力購入 申込書

北海道電力から提供している資料（添付資料）。

必要事項を記入してご使用下さい。

③ 発電設備に関する資料

北海道電力から提供している資料（添付資料）。

必要事項を記入してご使用下さい。

④ 認証証明書（写）

弊社から提供している資料（添付資料）。

そのまま添付資料としてご使用下さい。

⑤ 単線結線図

別途弊社から提供している資料。

そのまま添付資料としてご使用下さい。

⑥ 保護継電器整定値一覧表

※認証証明書（写）の裏面の添付があれば、割愛することができます。

⑦ 電気工事設計書・位置図・機器配置図

現地調達資料（本書では割愛しています）

⑧ 電気使用申込書・電気工事届

北海道電力 営業所にてお受け取りください（本書では割愛しております）。

⑨ 太陽電池モジュール仕様書

別途弊社から提供している資料。そのまま添付資料としてご使用下さい。

⑩ パワーコンディショナ仕様書

弊社から提供している資料（添付資料）。

そのまま添付資料としてご使用下さい。

⑪ 連絡先（連絡体制）

系統連系申込書を代行提出される施工店様当と設置者様とのご連絡網（電話番号）をメモにて添付して下さい。

※間に販売店様等を挟む場合、全ての会社様の連絡先をご記入下さい。

⑫ 振込依頼書

北海道電力からの提供している資料（添付資料）。

そのまま添付資料としてご使用下さい。

契約要綱対象

北海道電力株式会社 御中

申込者氏名 (契約名義)	(フリガナ)	印
電話番号	-	-

低圧太陽光発電設備 系統連系・電力購入 申込書

- 貴社電力系統と以下の発電設備との連系および太陽光発電設備からの発電電力の販売について、「太陽光発電設備設置にともなう系統連系および電力購入に関する契約要綱」を承諾のうえ、以下のとおり申し込みます。
- 本申込みを撤回した場合に、本申込みの内容の検討に要した費用を支払うことに同意いたします。(再生可能エネルギー発電設備が平成24年経済産業省告示第139号の第一号および第二号に掲げる場合を除きます。)

申込種別	<input type="checkbox"/> 新規 (<input type="checkbox"/> 系統連系+電力購入 <input type="checkbox"/> 電力購入のみ)、(<input type="checkbox"/> 新規設置 <input type="checkbox"/> 既存設備を利用)
	<input type="checkbox"/> 設備変更 (<input type="checkbox"/> モジュールの増減 <input type="checkbox"/> インバータの増減 <input type="checkbox"/> その他())

設備ID		配線方法	<input type="checkbox"/> 余剰型配線	<input type="checkbox"/> 全量型配線
発電機設置場所 (電気の使用場所)	〒			
発電機所有者住所 (ご連絡先住所)	〒 ※上記発電機設置場所とご連絡先が異なる場合は、ご記入をお願いいたします。			
業種・用途	<input type="checkbox"/> 住宅 <input type="checkbox"/> 住宅兼店舗 <input type="checkbox"/> 店舗 <input type="checkbox"/> 事務所 <input type="checkbox"/> 屋根貸し <input type="checkbox"/> その他()			
需給契約種別	<input type="checkbox"/> ドリーム8 <input type="checkbox"/> ドリーム8エコ <input type="checkbox"/> eタイム3 <input type="checkbox"/> 低圧電力 <input type="checkbox"/> 従量電灯B <input type="checkbox"/> 従量電灯C <input type="checkbox"/> その他()	契約容量	W・VA・A kVA・kW	

電気方式	供給電圧	<input type="checkbox"/> 単相2線式 <input type="checkbox"/> 単相3線式 <input type="checkbox"/> 3相3線式	<input type="checkbox"/> 100/200V <input type="checkbox"/> その他()
連系(受給)開始予定日	平成 年 月 日		

太陽光発電設備					
モジュール出力	※少数第3位まで(第4位は切捨)				kW
インバータ出力	※少数第3位まで(第4位は切捨)	4	.	6	kW
購入契約	あり				
技術要件	逆潮流あり				
自立運転	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし				

併設する発電設備(再生可能エネルギー発電設備以外)					
自家用発電設備の種類					
発電機出力(インバータ出力)					
逆潮流					
自立運転					

※1.併設する発電設備からの逆潮流がある場合は本申込書の対象外となります。

※2. 太陽光50kW未満、風力20kW未満、水力20kW未満および最大使用水量1m³/S未満(ダムを伴わない)、内燃力・燃料電池(固体高分子型および固体酸化物型)10kW未満で出力の合計が50kW未満の小出力発電設備については、選任不要となります。ただし、配線方法により、主任技術者の選任が必要となる場合がございますので、ご注意ください。

主任技術者※2	印
---------	---

【注意事項】

- 太陽光発電に加え他の発電設備を併設する場合、別紙「太陽光発電設備とその他発電設備を併設する場合」を提出いただきます。
- 本申込みにより系統連系に関する技術検討を行います。なお、状況により検討には3ヶ月程度要する場合があります。
- 検討の結果、当社の設備の変更が必要な場合には別途工事費を負担していただく場合があります。
- 申込受付後、当社がお客さまの申込みを承諾する場合は、別途「太陽光発電電力受給契約確認書」を発行いたします。

【添付資料】

<ul style="list-style-type: none"> 設備認定通知書(写) 電気使用申込書 電気工事届 電気工事設計書 位置図 機器配置図 	<ul style="list-style-type: none"> 単線結線図 発電設備に関する資料 保護継電器整定一覧表 連絡先(連絡体制) 振込依頼書 	<ul style="list-style-type: none"> ※「小型分散型発電システム用系統連系保護装置等の認証(JET、JIA等)」を受けた認証登録品以外の製品の場合は以下の技術資料も必要です。 ・機器仕様書 ・連系協議に関する技術資料 ・各種試験成績表 ※同一柱上変圧器内に他発電設備がある場合は、単独運転検出機能(能動的方式)の組合せ試験成績書(複数台連系試験成績書)が必要です。
---	---	---

※ 北海道電力株式会社では、ご提供いただいた個人情報を、電気事業の範囲内で利用いたします。

北海道電力(株)申込受付日時・平成 年 月 日 時 分(当社記入)

※当申込書に必要な事項をご記入いただいたうえ、併せて必要な書類を全てご提出いただいた日を当社の申込受付日とさせていただきます。

日付印

本書（別紙）は余剰型配線の太陽光発電設備に加えて他の発電設備を併設する場合のみご提出いただきます。太陽光発電設備のみの設置の場合、ご提出いただく必要はありません。

別紙

申込者氏名 (契約名義)	(フリガナ)	印	申込日	平成 年 月 日
発電機設置場所			電話番号	— —

【太陽光発電設備とその他発電設備を併設する場合】

併設するその他発電設備等にかかわる電力受給上の協力事項について、「太陽光発電設備設置にともなう系統連系および電力購入に関する契約要綱」13（電力受給上の協力）（1）～（7）を適用することに

<input type="checkbox"/> 同意します
<input type="checkbox"/> 同意しません* ()

電力受給上の協力事項を協議させていただく際の参考にするため、理由を記入ください。

※上記いずれかを してください。

※同意いただけない場合は、別途協議により電力受給上の協力事項を定めます。

電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法に基づく、「太陽光発電の買取制度」における適切な運用を図るため、次の事項にご記入願います。

① その他発電種類 (記載例: 風力、ガスエンジン、燃料電池、蓄電池 等)	
② 太陽光発電から電力会社の系統への逆潮流が発生する場合における「その他発電」の状況。	停止する・停止しない
③ ②で「停止しない」場合、「その他発電」から電力会社の系統へ逆潮流発生の可能性	有・無

②で「停止する」場合は、**太陽光発電単独**で設置される場合と同様の単価で購入いたします。

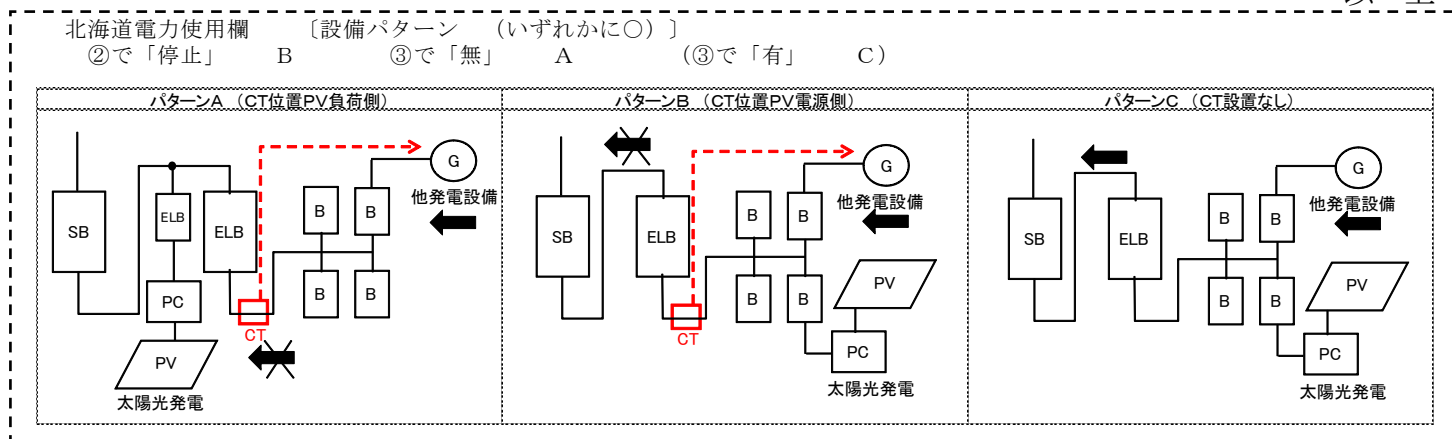
②で「停止しない」場合は、③の状況に応じて取扱いが異なります。

③で「無」の場合は、太陽光以外の**併設自家発電設備あり**として取扱います。

③で「有」の場合は、「太陽光発電設備設置にともなう系統連系および電力購入に関する契約要綱」の対象外となり、**本申込書の対象外となります。**

上表の記載内容と提出いただいた図面の記載内容・現地の状況が異なる場合の取扱いは、別途協議させていただきます。

以上



<<参考資料>>

発電設備に関する資料（低圧連系・逆変換装置）（ 台 中 台 目 ）

1. 連系箇所(電柱番号) ※電気工事届等で電柱 No を記載済みの場合は記入不要

電柱 No	画	区	図	番	の	号
引込柱						
変圧器柱						

2. 発電装置の仕様

【太陽光発電の場合】

太陽電池 (モジュール)	製造者(メーカ)	型 式	容 量	枚 数	合計容量
			kW	枚	KW
			kW	枚	KW
			kW	枚	KW
	合 計				枚

【太陽光発電以外の場合】※太陽光発電に併設する直流バッテリーを含む

発電装置の種類	製造者(メーカ)	型 式	容 量	台 数	合計容量
			kW	台	kW
			kW	台	kW
			kW	台	kW
合 計				台	kW

3. 連系用インバータ(PCS/逆変換装置)の仕様

製造者(メーカー)	三洋電機(株)	型 式	こちらにパワコン型式を記入してください。	容 量	4.6kW
-----------	---------	-----	----------------------	-----	-------

【認証品の場合】※認証証明書の写しを添付してください

認証機関	JET・JIA・その他()	認証番号	MP-0049
------	----------------	------	---------

【認証品以外の場合】※認証品以外の連系用インバータについては以下を記入して下さい(認証品の場合は記入不要)

種 類	自励式・他励式	電気方式	単相2線式・単相3線式・3相3線式		
定格電圧	V	定格出力	kW	運転力率	%
絶縁方式	絶縁変圧器・高周波変圧器・省略(設置形態:内蔵・別置)				
直流検出機能	有・無	高調波流出電流歪率	%		
単独運 転防止	受動	・電圧位相跳躍検出方式 ・周波数変化率検出方式 ・3次高調波電圧歪急増検出方式 ・その他()			
	能動	・周波数シフト方式 ・有効電力変動方式 ・無効電力変動方式 ・スリップモード周波数シフト方式 ・ステップ注入付周波数フィードバック方式 ・負荷変動方式 ・その他()			
自動電圧調整機能	進相無効電力調整 ・ 出力抑制 (使用・不使用)				
自動同期検定装置	有・無				
自立運転	自立運転機能	有・無			
	定格電圧*	V	定格出力*	KW	

※ 自立運転機能を有する場合のみ記入して下さい

平成 年 月 日

北海道電力株式会社 御中

(住所) _____

(申込者名) _____ 印

振 込 依 頼 書

貴社より当方に対する受給料金は下記銀行口座へお振込み願います。
なお、貴社の振込日をもって支払いを受けたものとして一切異議を申しません。

記

ご 指 定 預 金 口 座	ゆうちょ銀行 以外の 金融機関 の場合	銀行 店 金庫 組合 所	1. 普通 2. 当座 3. 組勘	口座番号 (右づめで記入)			
	ゆうちょ銀行 の場合	通帳記号		通帳番号 (右づめで記入)			
	フリガナ						
	お名前 (口座名義)						

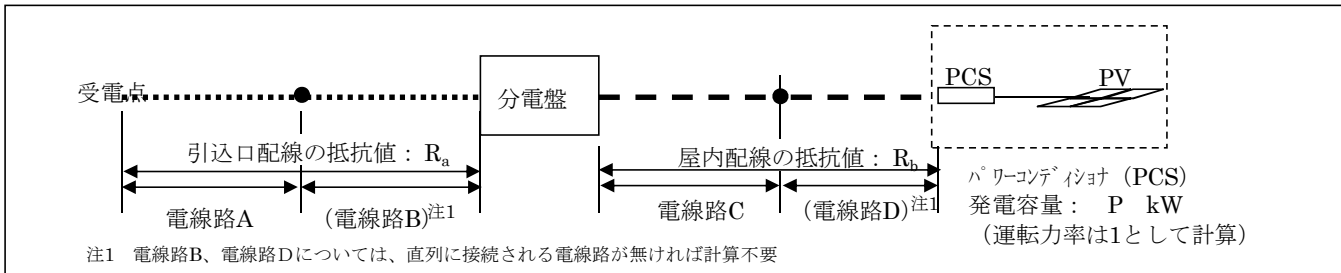
以 上

※ 北海道電力株式会社では、ご提供いただいた個人情報は、電気事業の範囲内で利用いたします。

屋内配線（受電点からPCSまで）の電圧上昇値の簡易計算書

箇所を入力することで自動計算
手計算の場合は白紙を印刷し使用

お客さま名：
工事施工業者：



■ 受電点からPCSまでの電圧上昇値の計算

電圧上昇計算式 $\Delta V = K \times \text{発電電流 } I_g \times (\text{引込口配線の抵抗値 } R_a + \text{屋内配線の抵抗値 } R_b)$

(1) K

電気方式	単相2線式200V
------	-----------

K = 2 ...①

電気方式	K
単相2線式100V	2
単相2線式200V	2
単相3線式100/200V	1
三相3線式200V	$\sqrt{3}$

※1 電圧線と中性線との電圧を求めるため1としている。

(2) 発電電流 I_g

発電容量P	4.6	kW
-------	-----	----

電気方式	発電電圧V
単相2線式100V	105
単相2線式200V	210
単相3線式100/200V	210
三相3線式200V	$\sqrt{3} \times 210$

発電電流 $I_g = \frac{\text{発電容量 } P(\text{kW}) \times 1,000}{\text{発電電圧 } V(\text{V})} = 21.9 \text{ A} \dots \text{②}$

(3) 引込口配線の抵抗値 R_a と屋内配線の抵抗値 R_b

引込口配線の抵抗値 : R_a

屋内配線の抵抗値 : R_b - - -

	電線路A	電線路B
電線太さ		
インピーダンス (Ω/km) (1)	(2)	(4)
互長 (m)	(3)	(5)
抵抗値 (Ω)	(6)	(7)
抵抗値(3)=(1)×(2)/1,000 (6)=(4)×(5)/1,000		

	電線路C	電線路D
電線太さ		
インピーダンス (Ω/km) (7)	(8)	(10)
互長 (m)	(9)	(11)
抵抗値 (Ω)	(12)	(13)
抵抗値(9)=(7)×(8)/1,000 (12)=(10)×(11)/1,000		

引込口配線の抵抗値 $R_a : (3) + (6) = \dots \Omega \dots \text{③}$

屋内配線の抵抗値 $R_b : (9) + (12) = \dots \Omega \dots \text{④}$

(4) 電圧上昇値 (ΔV) の計算

電圧上昇値 $\Delta V = K \text{①} \times \text{発電電流 } I_g \text{②} \times [\text{引込口配線の抵抗値 } R_a \text{③} + \text{屋内配線の抵抗値 } R_b \text{④}]$

受電点からPCSまでの電圧上昇値

(判定結果)

#VALUE!

※ 電圧上昇値が標準電圧の2%を超えている場合、電線太さ・互長の見直しをお願いします。

電線インピーダンス (抵抗)

引込口配線・屋内配線 (軟銅)

線種	(Ω/km)
2.0mm	5.650
2.6mm	3.350
3.2mm	2.210
5.5sq	3.330
8sq	2.310
14sq	1.300
22sq	0.824
38sq	0.487
60sq	0.303
100sq	0.180
150sq	0.118
200sq	0.092
250sq	0.072

小型分散型発電システム用系統連系装置 認証証明書(最新版)

東京都渋谷区代々木5-14-12
一般財団法人電気安全環境研究所
理事長 薦田 康久



2015年12月9日付け(受付番号:P15-0911号)で申込みのありました下記の製品は、小型分散型発電システム用系統連系装置等のJET認証業務規程第7条2項の規定により、下記のとおり発行いたします。

記

認証取得者

住所：群馬県邑楽郡大泉町坂田一丁目1番1号
氏名：三洋電機株式会社 エコソリューションズ部門 パワコンSBU

認証製品を製造する工場

住所：栃木県真岡市松山町18番地1
氏名：株式会社テクノデバイス

認証登録番号：MP-0049

認証登録年月日：平成26年1月22日

有効期限：平成31年1月21日

試験成績書の番号：第15TR-RC0221号

製品の型名等

認証モデルの名称：系統連系保護装置及び系統連系用インバータ

認証モデルの用途：多数台連系対応型太陽光発電システム用

認証モデルの型名：VBPC246B, SSITL46B1GS, CVPC-046BT2, NEG246B1, YLE-TL46B1, VBPC246B1, GPM46A, SPSM-46A-RE, YL-SPSM4-46A, VBPC246B2, SSITL46B2CS, CVPC-046BT3, NEG246B2, GPM46B, SPSM-46B-RE, YL-SPSM4-46B, SPSM-46A-SOL, HQJP-R46-A1, CSP46G4B, SPSM-46B-LP, VBPC246B3, SPSM-46C-LP, EH046M-A1, SPSM-46C-JA 及び CVPC-046BT4

認証モデルの仕様

- 1) 連系対象電路の電気方式等
 - a. 電気方式：単相2線式
 - b. 電圧：202V
 - c. 周波数：50Hz/60Hz
- 2) 最大出力、運転力率
 - a. 最大出力：4.6kW
 - b. 運転力率：0.95以上
- 3) 系統電圧制御方式：出力制御
- 4) 連系保護機能の種類
 - a. 逆潮流の有無：有
 - b. 単独運転防止機能
 - (a) 能動的方式：ステップ注入付周波数フィードバック方式
 - (b) 受動的方式：電圧位相跳躍方式
 - c. 直流分流出防止機能：有
 - d. 電圧上昇抑制機能：有効電力抑制
- 5) 保護機能の整定範囲及び整定値：裏面に記載
- 6)
 - a. 適合する直流入力電圧範囲：70~450V
 - b. 適合する直流入力数：4
- 7) 自立運転の有無：有
- 8) ソフトウェア管理番号：FHP246B_I (遠隔出力制御対応 及び フリッカ対策対応),
FHP246B_G (遠隔出力制御対応 及び フリッカ対策非対応),
FHP246B_E1 (遠隔出力制御非対応 及び フリッカ対策非対応)

特記事項：別紙のとおり

《裏面に続く》

登録番号：MP-0049

(整定値は、認証試験時の整定値です。)

保護機能の仕様及び整定値

保 護 機 能		整 定 値
交流過電流 ACOC	検出レベル	26A
	検出時限	0.4秒
直流過電圧 DCOVR	検出レベル	450V
	検出時限	0.3秒
直流不足電圧 DCUVR	検出レベル	70V
	検出時限	0.4秒
直流分流出検出	検出レベル	184mA
	検出時限	0.4秒

保護リレーの仕様及び整定値

保 護 リ レ ー		整 定 値	整 定 範 囲	
交流過電圧 OVR	検出レベル	115.0V	110.0, 112.5, 115.0, 117.5, 120.0V	
	検出時限	1.0秒	0.5, 1.0, 1.5, 2.0秒	
交流不足電圧 UVR	検出レベル	80.0V	80.0, 82.5, 85.0, 87.5, 90.0V	
	検出時限	1.0秒	0.5, 1.0, 1.5, 2.0秒	
周波数上昇 OFR	検出レベル	50Hz	51.0Hz	50.5, 51.0, 51.5, 52.0, 52.5Hz
		60Hz	61.0Hz	60.5, 61.0, 61.5, 62.0, 62.5, 63.0Hz
		検出時限	1.0秒	0.5, 1.0, 1.5, 2.0秒
周波数低下 UFR	検出レベル	50Hz	47.5Hz	47.5, 48.0, 48.5, 49.0, 49.5Hz
		60Hz	58.5Hz	57.0, 57.5, 58.0, 58.5, 59.0, 59.5Hz
		検出時限	1.0秒	0.5, 1.0, 1.5, 2.0秒
逆電力 RPR	検出レベル	—		
	検出時限	—		
復電後一定時間の遮断装置投入阻止		300秒	150, 300, 10秒, 手動復帰	
電圧上昇抑制機能	有効電力制御	109.0V	107.0, 107.5, 108.0, 108.5, 109.0, 109.5, 110.0, 110.5, 111.0, 111.5, 112.0, 112.5, 113.0V	

単独運転検出機能の仕様及び整定値

検 出 方 式		整 定 値	整 定 範 囲	
受動的方式	電圧位相跳躍 方式	検出レベル	8°	6°, 8°, 10°, 12°
		検出時限	0.5秒以内	固定
		保持時限	—	
能動的方式	ステップ注入 付周波数フィ ードバック方 式	検出レベル	1.2Hz	固定
		検出要素	周波数偏差	—
		解列時限	瞬時	—

速断用(瞬時)過電圧の整定値

保 護 リ レ ー		整 定 値
瞬時交流過電圧 OVR	検出レベル	130V
	検出時限	0.1秒

(認証証明書記載事項変更履歴)
別紙のとおり

(別紙)

特記事項：FRT要件対応

ソフトウェア管理番号：

- ・遠隔出力制御対応 及び フリッカ対策対応
【FHP246B_I】 VBPC246B3, HQJP-R46-A1, SPSM-46C-LP, EH046M-A1, SPSM-46C-JA, CVPC-046BT4
- ・遠隔出力制御対応 及び フリッカ対策非対応
【FHP246B_G】 VBPC246B2, SSITL46B2CS, CVPC-046BT3, NEG246B2, GPM46B, SPSM-46B-RE, YL-SPSM4-46B, SPSM-46A-SOL, YLE-TL46B1, CSP46G4B, SPSM-46B-LP
- ・遠隔出力制御非対応 及び フリッカ対策非対応
【FHP246B_E1】 VBPC246B, SSITL46B1CS, CVPC-046BT2, NEG246B1, VBPC246B1, GPM46A, SPSM-46A-RE, YL-SPSM4-46A

(認証証明書記載事項変更履歴) ※()内の日付は、変更年月日

- | | |
|---|--|
| <p>1. 平成26年 4月 3日 (2014年 4月 1日)</p> <p>2. 平成26年 4月21日 (2014年 4月30日)</p> <p>3. 平成26年 6月10日 (2014年 7月 1日)</p> <p>4. 平成26年 7月11日 (2014年10月 6日)</p> <p>5. 平成26年 7月30日 (2014年 8月18日)</p> <p>6. 平成26年 8月 8日 (2014年 9月 8日)</p> <p>7. 平成26年10月15日 (2014年10月27日)</p> <p>8. 平成26年12月26日 (2015年 1月13日)</p> <p>9. 平成27年 3月 5日 (2015年 3月 5日)</p> | <p>認証取得者及び責任者の会社部署名の変更</p> <p>①ソフトウェア管理番号の変更：FHP246B_D</p> <p>②復電後一定時間の遮断装置投入阻止整定値：手動復帰追加</p> <p>①認証モデルの型名追加：NEG246B1 を追加</p> <p>②認証モデルの型名変更：CVPC-046BT1 → CVPC-046BT2</p> <p>ソフトウェア管理番号の変更：FHP246B_E</p> <p>認証モデルの型名追加：YLE-TL46B1 を追加</p> <p>認証モデルの型名追加：VBPC246B1 を追加</p> <p>認証モデルの型名追加：GPM46A 及び SPSM-46A-RE 追加</p> <p>認証モデルの型名追加：YL-SPSM4-46A 追加</p> <p>①認証モデルの型名追加：
VBPC246B2, SSITL46B2CS, CVPC-046BT3, NEG246B2,
GPM46B, SPSM-46B-RE, YL-SPSM4-46B, SPSM-46A-SOL,
HQJP-R46-A1 追加</p> <p>②ソフトウェア管理番号の変更：FHP246B_F</p> <p>ソフトウェア管理番号の変更：FHP246B_G</p> <p>ソフトウェア管理番号の変更：FHP246B_E1</p> <p>認証モデルの型名追加：CSP46G4B 追加</p> <p>認証モデルの型名追加：SPSM-46B-LP 追加</p> <p>①認証モデルの型名追加：VBPC246B3 追加</p> <p>②ソフトウェア管理番号の変更：
FHP246B_H, FHP246B_G 及び FHP246B_E1</p> <p>①ソフトウェア管理番号の変更：
FHP246B_I, FHP246B_G 及び FHP246B_E1</p> <p>各ソフトウェア管理番号ごとの登録型名変更：
【FHP246B_I】 VBPC246B3, HQJP-R46-A1
【FHP246B_G】 VBPC246B2, SSITL46B2CS, CVPC-046BT3,
NEG246B2, GPM46B, SPSM-46B-RE, YL-SPSM4-46B
SPSM-46A-SOL, YLE-TL46B1, CSP46G4B, SPSM-46B-LP
【FHP246B_E1】 VBPC246B, SSITL46B1CS, CVPC-046BT2, NEG246B1,
VBPC246B1, GPM46A, SPSM-46A-RE, YL-SPSM4-46A</p> <p>認証モデルの型名追加：
SPSM-46C-LP, EH046M-A1, SPSM-46C-JA, CVPC-046BT4 追加</p> |
| <p>10. 平成27年 3月16日 (2015年 3月16日)</p> <p>11. 平成27年 3月19日 (2015年 3月20日)</p> <p>12. 平成27年 6月11日 (2015年 6月15日)</p> <p>13. 平成27年 7月29日 (2015年 7月31日)</p> <p>14. 平成27年 9月 3日 (2015年 9月15日)</p> | <p>①ソフトウェア管理番号の変更：
FHP246B_H, FHP246B_G 及び FHP246B_E1</p> <p>①ソフトウェア管理番号の変更：
FHP246B_I, FHP246B_G 及び FHP246B_E1</p> <p>各ソフトウェア管理番号ごとの登録型名変更：
【FHP246B_I】 VBPC246B3, HQJP-R46-A1
【FHP246B_G】 VBPC246B2, SSITL46B2CS, CVPC-046BT3,
NEG246B2, GPM46B, SPSM-46B-RE, YL-SPSM4-46B
SPSM-46A-SOL, YLE-TL46B1, CSP46G4B, SPSM-46B-LP
【FHP246B_E1】 VBPC246B, SSITL46B1CS, CVPC-046BT2, NEG246B1,
VBPC246B1, GPM46A, SPSM-46A-RE, YL-SPSM4-46A</p> <p>認証モデルの型名追加：
SPSM-46C-LP, EH046M-A1, SPSM-46C-JA, CVPC-046BT4 追加</p> |
| <p>15. 平成27年10月 9日 (2015年10月15日)</p> <p>16. 平成27年11月26日 (2015年12月 1日)</p> | <p>①ソフトウェア管理番号の変更：
FHP246B_H, FHP246B_G 及び FHP246B_E1</p> <p>①ソフトウェア管理番号の変更：
FHP246B_I, FHP246B_G 及び FHP246B_E1</p> <p>各ソフトウェア管理番号ごとの登録型名変更：
【FHP246B_I】 VBPC246B3, HQJP-R46-A1
【FHP246B_G】 VBPC246B2, SSITL46B2CS, CVPC-046BT3,
NEG246B2, GPM46B, SPSM-46B-RE, YL-SPSM4-46B
SPSM-46A-SOL, YLE-TL46B1, CSP46G4B, SPSM-46B-LP
【FHP246B_E1】 VBPC246B, SSITL46B1CS, CVPC-046BT2, NEG246B1,
VBPC246B1, GPM46A, SPSM-46A-RE, YL-SPSM4-46A</p> <p>認証モデルの型名追加：
SPSM-46C-LP, EH046M-A1, SPSM-46C-JA, CVPC-046BT4 追加</p> |
| <p>17. 平成27年12月25日 (2015年12月28日)</p> | <p>認証モデルの型名追加：
SPSM-46C-LP, EH046M-A1, SPSM-46C-JA, CVPC-046BT4 追加</p> |

以上

納入仕様書

品名 4.6kW 太陽光発電システム用 ソーラーパワーコンディショナ
型式 HQJP-R46-A1

承認	照査	作成
		

納入仕様書目次

1. 一般事項	-----3
2. 一般条件	-----4
3. 機器仕様	-----5-7
4. 遠隔出力制御について	-----7
5. 保護機能仕様	-----8-11
6. 試験・検査	-----12
7. 据付工事に関する注意事項	-----12
8. 使用上の注意	-----13
9. 専用別売品	-----14-15

添付資料

・主回路構成図	-----16
・外形図およびラベル配置図	-----17
・検査成績表	-----18

1. 一般事項

1-1 適用

本仕様書は、低圧系統連系太陽光発電用屋外マルチストリング型パワーコンディショナ「HQJP-R46-A1」に適用します。

1-2 免責事項

パワーコンディショナ及び接続機器の誤作動および、故障等により動作しなかった事による付随的障害等については責任を負わないものとします。

1-3 補修用性能部品の最低保有期間

パワーコンディショナの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後9年とします。
尚性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

1-4 製品同梱資料

項目	提出部数	備考
取扱説明書	各パワーコンディショナにつき1部	各パワーコンディショナに同梱します
施工説明書	各パワーコンディショナにつき1部	各パワーコンディショナに同梱します
検査成績書	各パワーコンディショナにつき1部	各パワーコンディショナに同梱します
工事用型紙	各パワーコンディショナにつき1部	各パワーコンディショナに同梱します

1-5 付属品

部品名	個数	部品名	個数
壁取付板(間柱 430~455mmピッチ)	1	アース線用圧着端子(R5.5-5)	1
防水ネジ M4×12	1	絶縁キャップ TCM-53-16(緑)	1
壁取付板固定ネジ 5×60(High-Lowネジ)	11	系統側接続用ケーブル用圧着端子(8-5NS)	4
開閉器用端子カバー	4	絶縁キャップ TCM-81-13(青)	3
開閉器用圧着端子(5.5-AF4A-S)	8	自立運転コンセントラベル	1
絶縁キャップ TCM-53-11(赤) TSM-53-13(青)	各4	パテ(200g)	1

1-6 適用範囲外

太陽電池とパワーコンディショナ間の配線材料及び連系運転用の配線材料については適用範囲外とさせていただきます。

1-7 その他

本パワーコンディショナは、(財)電気安全環境研究所が行う太陽光発電用インバータ・系統連系保護装置の任意認証制度による認証試験適合品とします

2. 一般条件

2-1 周囲条件

- ① 設置場所 : 屋外・屋側・屋内
- ② 動作温度範囲 : -20~+50℃ (直射日光が当たらないこと)
- ③ 保存温度範囲 : -25~+60℃
- ④ 湿度 : 90%RH 以下 (結露無きこと)

2-2 適用法令・規格

- ① JIS C 8980 「小出力太陽光発電用パワーコンディショナ」(日本工業規格)
- ② JIS C 8961 「太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法」(日本工業規格)
- ③ 系統連系規程(JEAC 日本電気協会)
- ④ 電気事業法施行規則

3. 機器仕様

3-1 共通

3-1-1 共通定格

- ・ 定格入力電圧 : DC330V
- ・ 入力電圧範囲 : DC70~450V

※電気設備技術基準の対地電圧は 450V 以下であることと規程されています。

従って、太陽電池の組み合わせにおいて、いかなる条件(環境、太陽電池特性を含めて)においても 450V 以下となるようなシステム設計をしてください。

450V を超えた場合には直流過電圧を検出し、太陽電池過電圧(F3 エラー)が表示されパワーコンディショナ停止します。

- ・ 入力回路数 : 4 回路(各回路ごとに MPPT 制御つき)
- ・ 消費電力 : 待機時消費電力 1W 未満(一括制御リモコン消費電力 0.1W 含む)
50Hz : 25VA 未満 60Hz : 30VA 未満

発電時 0W/0VA

※発電時に関しては、パワーコンディショナ自体の消費電力をすべて太陽電池側でまかさないます。

3-1-2 系統連系運転時定格

- ・ 定格出力電力 : 4.6kW
- ・ 最大入力電力 : 最大入力電力/1 回路、最大入力電流/1 回路の範囲内
- ・ 動作電圧範囲 : DC75~435V(ただし、入力回路毎の最適動作電圧比は 5 倍以内であること。)
- ・ 定格出力電圧 : AC202V (単相 2 線式、但し連系は単相 3 線式)
- ・ 定格出力周波数 : 50 または 60Hz
- ・ 最大入力動作電流 : 40A(最大 10A/1 入力)
- ・ 短絡電流 : 最大 10.5A/1 入力
- ・ 最大出力電流 : 23Arms
- ・ 定格時電力変換効率 : 96.0%(JIS C 8961 による)
(95.5%(参考値) : 入力電圧 DC250V 時)
- ・ 出力基本波力率 : 0.80~1.00 0.01 刻みで可変(出荷時 1.00)
- ・ 高調波電流含有率 : 総合 5%以下、各次 3%以下
- ・ 連系運転範囲 : 連系点電圧 OVR、UVR 設定値による
系統周波数 OFR、UFR 設定値による
- ・ 雑音端子間電圧 : VCCI クラス B
- ・ 突入電流 : なし
- ・ 冷却方式 : 自然空冷
- ・ 騒音 : 定格出力時 28dB±3dB

※パワーコンディショナの前面中央から 1m 離れた床面から高さ 1m の位置において測定。(JIS C 8980 11.9 騒音規程による)

3-1-3 自立運転時定格

- ・ 定格出力電力 : 1.5kVA(自立運転端子機能付き)
- ・ 定格出力電圧 : AC101V
- ・ 出力電圧範囲 : AC101V±6V
- ・ 出力電気方式 : 単相 2 線式
- ・ 定格出力周波数 : 50 または 60Hz
- ・ 出力周波数精度 : 定格周波数に対し±1Hz 以内
- ・ 最低入力電圧 : DC70V
- ・ 最大出力電流 : 15A (実効値)
- ・ 電力変換効率 : 92%以上 (定格入力・定格出力時、R 負荷)

3-2 主回路方式

- ・変換方式
 - 連系運転時 : 電圧型電流制御方式
 - 自立運転時 : 電圧型電圧制御方式
- ・絶縁方式 : トランスレス方式
- ・スイッチング方式 : 正弦波 PWM 方式
- ・接地方式 : 直流回路側は非接地方式とし、交流出力の中性線が配電線の柱上変圧器側で接地される方式とする。(但し自立運転は非接地)

3-3 制御方式

- ・電力制御方式 : 最大電力追尾制御
- ・補助制御機能 : 自動電圧調整 (有効電力制御 : 107V 以上)
- ・運転制御方式 : 自動起動・停止 (起動時ソフトスタート)
- ・起動電圧 : DC90V±3V 以上 150 秒以上継続または、DC150V±3V 以上 10 秒間以上継続
- ・停止電圧 : DC70V±2V

3-4 電気的特性

- ・絶縁抵抗 : 1MΩ 以上
- ・耐電圧 : AC1500V 1 分間

3-5 直流開閉器(バイメタルサーモスタットによる保護機能付き)

- ・定格入力電圧 : DC330V
- ・最大入力電圧 : DC500V
- ・最大入力電流 : DC15A

3-6 表示機能

- ・各 LED の表示機能
 - 連系運転 LED
 - 点灯 : 連系運転時
 - 点滅 : 連系運転モードで連系リレーが ON になるまでの間(500 ミリ秒間隔)
 - 消灯 : 上記以外およびエラー発生時
 - 自立運転 LED
 - 点灯 : 自立運転時
 - 点滅 : 自立運転モードで自立リレーが ON になるまでの間(500 ミリ秒間隔)
 - 消灯 : 上記以外およびエラー発生時
 - 抑制 LED
 - 点灯 : 系統電圧上昇抑制中
 - 点滅 : 無し
 - 消灯 : 系統電圧上昇抑制中ではない
- ・夜間表示 : なし
- ・表示範囲 : 発電量[kW]、積算電力量[kWh]、電圧上昇抑制累計時間[分]、点検コード
- ・表示精度 : ±10%以内(F.S.=4.6kW)
- ・点検コード : 最新の点検コードから順番に最大 16 個表示する

3-9 その他

多数台連系対応型単独運転防止機能(ステップ注入付周波数フィードバック方式)搭載

FRT(系統事故時運転継続)要件対応

力率一定制御：0.80~1.00(0.01 毎)

復電時の連系復帰：手動/自動選択

自立運転用の端子台搭載(自立運転用コンセントを設置する場合は、配線工事が必要となります)

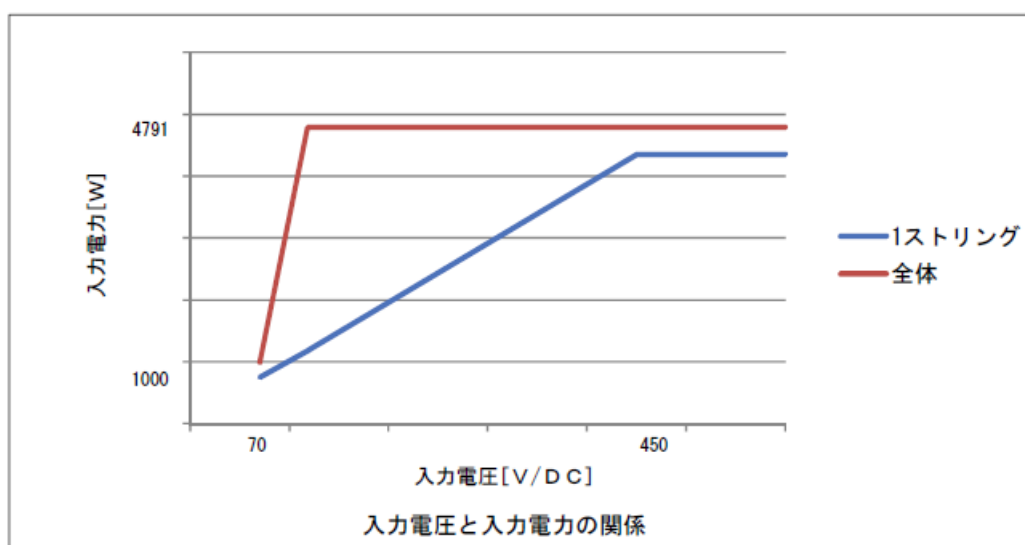
出力電力抑制機能

太陽電池からの発電能力が、パワーコンディショナの定格出力を超える場合、自動的に入力電力を制限します。

入力電力抑制機能

太陽電池からの入力電流が、パワーコンディショナの最大入力電流を超える場合、自動的に入力電力を制限します。

直流入力電圧と入力電力との関係を以下に示します。(値は目安です)



- ・製品寸法 : W480×H688×D167(mm)
- ・製品質量 : 約 29kg(壁取付板含む : 約 32kg)
- ・梱包寸法 : W766×H246×D574(mm)
- ・梱包質量 : 約 34kg(壁取付板含む)
- ・防塵防水性能 : IP65(配線部及び水抜孔除く)

4. 遠隔出力制御について

2015年1月22日公布。再生可能エネルギー特別措置法施行令規則の一部を改正する省令と関連告示に適用した機器です。

- ・外部受令措置(送信ユニット)による遠隔出力制御機能あり

(遠隔出力制御システム対応型パワーコンディショナだけでは、遠隔出力制御はできませんのでご留意願います。また、遠隔出力制御は、電力会社の要請により実施されますので、詳細については電力会社にご確認ください。)

※通信に関わるランニングコストについて

インターネット回線契約・利用に伴う費用は、ご負担いただくことになります。

5. 保護機能仕様

5-1 系統連系保護機能仕様

表 5-1 50Hz 時制定値一覧()内は 60Hz 時

保護機能		レベル・時 限・初期値	整定値範囲
交流過電圧 OVR	検出レベル	115V	検出相数 : 2相(单相3線式の中性線と両側電圧間) 整定値範囲 : 110~120V 設定ステップ : 2.5V 解列箇所 : 機械的開閉箇所+ゲートブロック
	検出時限	1.0 秒	検出相数 : 2相(单相3線式の中性線と両側電圧間) 整定値範囲 : 0.5~2.0 秒 設定ステップ : 0.5 秒
交流不足電圧 UVR	検出レベル	80V	整定値範囲 : 80~90V 設定ステップ : 2.5V 解列箇所 : 機械的開閉箇所+ゲートブロック
	検出時限	1.0 秒	整定値範囲 : 0.5~2.0 秒 設定ステップ : 0.5 秒
周波数上昇 OFR	検出レベル	51Hz (61Hz)	検出相数 : 1相(单相3線式の中性線と片側電圧間) 整定値範囲 : 50.5~52.5Hz(60.5~63.0Hz) 設定ステップ : 0.5Hz 解列箇所 : 機械的開閉箇所+ゲートブロック
	検出時限	1.0 秒	整定値範囲 : 0.5~2.0 秒 設定ステップ : 0.5 秒
周波数低下 UFR	検出レベル	47.5Hz (58.5Hz)	検出相数 : 1相(单相3線式の中性線と片側電圧間) 整定値範囲 : 47.5~49.5Hz(57.0~59.5Hz) 設定ステップ : 0.5Hz 解列箇所 : 機械的開閉箇所+ゲートブロック
	検出時限	1.0 秒	整定値範囲 : 0.5~2.0 秒 設定ステップ : 0.5 秒
受動的単独運転検出 (電圧位相跳躍方式)	検出レベル	8°	整定値範囲 : 6~12° 設定ステップ : 2° 解列箇所 : 機械的開閉箇所+ゲートブロック
	検出時限	0.5 秒以内	整定値範囲 : 固定
能動的単独運転検出 (ステップ注入付周波数フ ィードバック方式)	検出レベル	1.2Hz	整定値範囲 : 固定 解列箇所 : 機械的開閉箇所+ゲートブロック
	検出要素	周波数偏差	—
	解列時限	瞬時	—
保護リレー復帰時間		300 秒	整定値範囲 : 300 秒、150 秒、10 秒、手動復帰
電圧上昇抑制	進相無効電力制御 有効電力抑制制御 (出力を半定格又 は0に制御)	109V	整定値範囲 : 107~113V 設定ステップ : 0.5 秒
交流過電流 ACOC	検出レベル	26Arms	整定値範囲 : 固定 解列箇所 : 機械的開閉箇所+ゲートブロック
	検出時限	0.4 秒	整定値範囲 : 固定

前ページからのつづき			
保護機能		レベル・時 限・初期値	整定値範囲
直流過電圧 DCOVR	検出レベル	450V	整定値範囲 : 固定 解列箇所 : 機械的開閉箇所+ゲートブロック
	検出時限	0.3 秒	整定値範囲 : 固定
直流不足電圧 DCUVR	検出レベル	70V	整定値範囲 : 固定 解列箇所 : 機械的開閉箇所+ゲートブロック
	検出時限	0.4 秒	整定値範囲 : 固定
直流分流出検出	検出レベル	184mA	整定値範囲 : 固定 解列箇所 : 機械的開閉箇所+ゲートブロック
	検出時限	0.4 秒	整定値範囲 : 固定
瞬時交流過電圧 OVR	検出レベル	130V	整定値範囲 : 固定 解列箇所 : 機械的開閉箇所+ゲートブロック
	検出時限	0.1 秒	整定値範囲 : 固定
DC 地絡	検出時限	0.5 秒	整定値範囲 : 0.5~1.5 秒 設定ステップ : 0.5 秒

5-2 パワーコンディショナ自己診断機能

パワーコンディショナ本体の保護機能動作時、系統の停電などを検出した場合、本体表示部に点検コードを表示します。コードが「E」で始まるものは系統側、「F」で始まるものはパワーコンディショナ側(自立運転の内容を含む)を意味します。リモコンに「F」で始まる点検コード表示の際、リモコンのブザー音を鳴らします。(リモコンの運転/停止スイッチにより停止状態にすることにより、ブザー音は停止します。パワコン本体のブザー音の有無は設定可能です。)

表 5-2 にパワーコンディショナの点検コード一覧表を示します。点検コードは、リモコンでは、「総積算 SW」を 5 秒以上長押しし抑制時間を表示させた後に「総積算 SW」を再度 10 秒以上長押しします。その後に「総積算 SW」を押すことで、一方本体では、本体表示基板上の「エラー呼び出し SW」を押すことで過去に遡って(最大 16 個)確認することが可能です。ただし、必ずしも一致するものではありません。また、自立運転時に表示した点検コードは履歴に記憶されません。

表 5-2 点検コード内容一覧

系統側に関する点検コード内容 (E-XX)		
点検コード	項目	内容
E 1	系統過周波数	系統過周波数検出
E 2	系統不足周波数	系統不足周波数検出
E 3	U 相不足電圧	U 相系統不足電圧検出
E 4	U 相過電圧	U 相系統過電圧検出
E 5	W 相不足電圧	W 相系統不足電圧検出
E 6	W 相過電圧	W 相系統過電圧検出
E 7	位相跳躍	位相跳躍検出
E 8	高速単独運転	高速単独運転検出
E 9	U 相瞬時過電圧	U 相瞬時過電圧検出
E 10	W 相瞬時過電圧	W 相瞬時過電圧検出
E 11	ゼロクロス未入力	系統ゼロクロス未入力

E 12	系統周波数未決定	系統周波数未決定
E 13	U相系統遮断	U相系統遮断電圧検出
E 14	W相系統遮断	W相系統遮断電圧検出
E 99	系統異常手動復帰待ち	系統異常からの手動復帰待ち
パワーコンディショナ側に関する点検コード内容 (F・XX)		
F 1	IPM アラーム	IPM エラー信号検出
F 2	瞬時過電流検出	瞬時過電流検出 (38A 以上)
F 3(※1)	太陽電池過電圧	太陽電池過電圧検出 (450V 以上)
F 4	直流地絡	直流地絡検出 (±100mA 以上、以下)
F 5	OTP エラー	外部 ROM エラー
F 6	チョッパ過電圧	昇圧後電圧の過電圧検出 (460V 以上)
F 7	チョッパ瞬時過電圧	昇圧後電圧の瞬時過電圧検出 (465V 以上)
F 8	直流分検出	インバータ直流分検出 (±184mA 以上、以下)
F 9	交流過電流	交流過電流検出 (26Arms 以上)
F 12	IPM 温度異常	放熱板の温度異常 (104.5℃以上)
F 13	ヒートシンクサーミスタ	ヒートシンク用サーミスタのオープン・ショート検出
F 14	補正值異常	センサの補正值異常
F 15	昇圧後電圧検出回路故障	昇圧後電圧検出回路の故障
F 16	発電上限指示値受信異常	出力制御ユニットとの通信断絶
F 18	チョッパ不足電圧	目標電圧値未昇圧
F 19	端子台異常	温度ヒューズ動作検出
F 20	U-O 間誤接続	U-O 間誤接続検出 (140V 以上)
F 21	W-O 間誤接続	W-O 間誤接続検出 (140V 以上)
F 24	地絡センサオープン	直流地絡センサオープン検出
F 25	交流・直流電力不一致	交流・直流電力不一致
F 26(※1)	直流電流センサ異常	直流電流センサ異常
F 27	交流電流センサ異常	交流電流センサ異常
F 32	リレー溶着検出	系統解列用リレー接点の溶着を検出
F 33	リレー接続不可	系統解列用リレー接続不可時
F 35	表示機用アドレス重複	表示機用同一アドレスが通信ラインに存在
F 36(※1)	瞬時直流過電流	直流過電流検出 (14.5A 以上)
F 41	HIC アラーム	HIC アラーム信号検出
F 42	ファンロック	ファンロック信号検出
F 45	昇圧回路故障	昇圧回路故障を検出
F 46	即断チョッパ過電圧	昇圧後電圧の即断過電圧検出 (470V 以上)
F 47(※2)	リモコン通信異常	本体と同じアドレスのリモコンとの通信異常検出
F 57	瞬時過電流多数回	F 2、F 9を8回検出
F 58	IPM アラーム多数回	F 1を8回検出
F 59	直流地絡多数回	F 4を8回検出

前ページからのつづき		
点検コード	項目	内容
F 60	直流分検出多数回	F 8 を 8 回検出
F 61	チョッパ過電圧多数回	F 6、F 7、F 46 を 8 回検出
F 63	IPM 温度異常多数回	F 12 を 8 回検出
F 65(※1)	太陽電池過電圧多数回	F 3 を 8 回検出
F 66(※1)	直流過電流多回数	F 36 を 8 回検出
F 67	HIC アラーム多数回	F 41 を 8 回検出
L 1(※3)	リモコンアドレス重複	リモコンアドレス重複

自立運転に関する点検コード内容 (F-XX)		
点検コード	項目	内容
F 81	過電流検出	自立運転時過電流検出 (15.5Arms)
F 82	不足電圧検出	自立運転時不足電圧検出 (91Vrms)
F 83	過電圧検出	自立運転時過電圧検出 (111Vrms)
F 87	自立リレー接続前不足電圧検出	不足電圧により自立リレーが ON できない (95Vrms)
F 88	自立リレー接続前過電圧検出	過電圧により自立リレーが ON できない (107Vrms)
F 89	過電流多数回	F 81 を 8 回検出
F 90	不足電圧多数回	F 82 を 8 回検出
F 91	過電圧多数回	F 83 を 8 回検出

※直流不足電圧に対する点検コード表示は行いません。

※点検コード履歴はリモコンではリモコン上のスイッチを操作することにより、また本体では本体基板上的の押しボタンスイッチを操作することにより、確認および消去可能です。

(※1)は本体表示部のみストリング識別用アルファベットが表示され、下記のように対応しています。

ストリング 1 ⇒ A

ストリング 2 ⇒ b

ストリング 3 ⇒ c

ストリング 4 ⇒ d

(例)ストリング 3 太陽電池過電圧発生時

・リモコン表示部 ⇒ F 3

・本体表示部 ⇒ F 3c

(※2)は本体のみに表示するエラーコードです。

(※3)はリモコンのみに表示するエラーコードです。

6. 試験・検査

下記に示す試験項目を検査工程にて行い、検査成績書を製品に同梱します。

〔試験項目〕

- (1) 外観・構造検査
- (2) 絶縁性能試験
- (3) 耐電圧性能試験
- (4) 保護性能試験
 - ① 交流過電圧試験 (OVR)
 - ② 交流不足電圧試験 (UVR)
 - ③ 交流過周波数試験 (OFR)
 - ④ 交流不足周波数試験 (UFR)
 - ⑤ 単独運転防止検査
 - ⑥ 復電後の一定時間投入阻止の検査
- (5) 定格時特性試験 (効率・力率・高調波含有率)
- (6) 自立運転試験 (電圧精度・周波数精度)

7. 据付工事に関する注意事項

- (1) パワーコンディショナは壁面に正しい方向で取り付けてください。
- (2) パワーコンディショナの重量 (壁取り付け板を含め 32kg) に十分耐える壁構造が必要です。
- (3) パワーコンディショナは水平に設置してください。
- (4) パワーコンディショナの前面には点検スペースとして 800mm 以上を確保することを推奨します。また、上下左右は放熱スペース及び点検のために、図 7-1 に示すスペースが必要です。パワーコンディショナに同梱されている施工説明書を参照の上、正しく据付けてください。

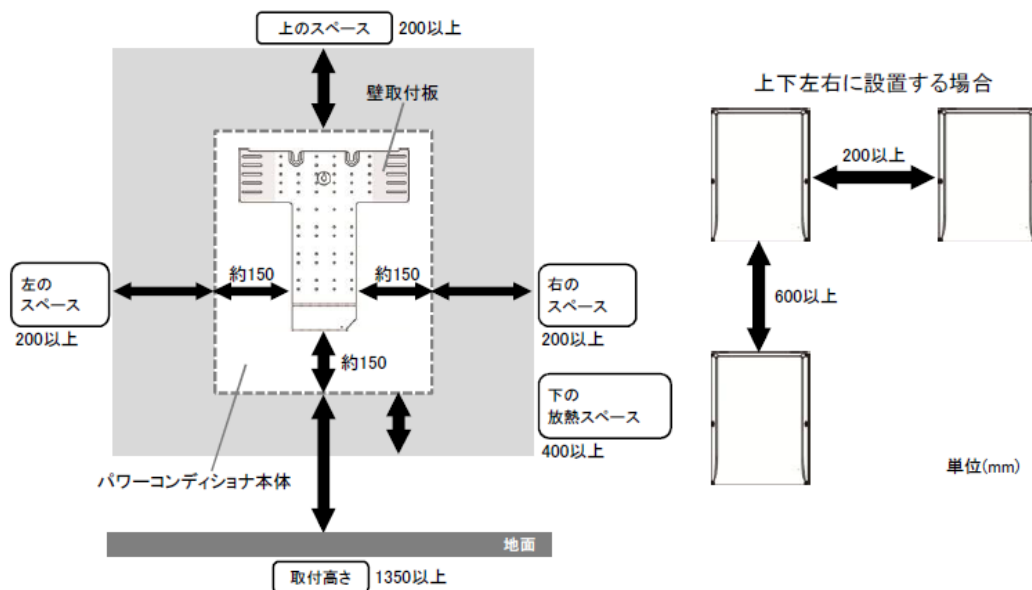


図 7-1 壁面取り付け時の周囲との最低スペース

※上下設置する場合は2台までとしてください。

※HQJP-R46-A1 と HQJP-R59-A1 を上下に設置する場合は、必ず HQJP-R46-A1 を下に、HQJP-R59-A1 を上に設置してください。

※設置場所により、上記寸法の他に操作スペース・工事スペース等を確保する必要があります。

8. 使用上の注意

以下での使用は装置故障等の原因となりますので、設置および接続はしないでください。

- (1) 壁の変色や排熱・機器特性上の電磁音が気になる場所
- (2) 上下さかさまや横倒しの設置
- (3) 積雪地域(積雪時に本製品が雪に埋もれてしまうような場所や、落雪による衝撃を受けるおそれのある場所)・塩害地域(沖縄、離島、外海の海岸から1km以内、内海の海岸から500m以内または潮風が直接あたる場所)
※1
- (4) 水上及び常時水を浴びる場所、住宅の屋側から離れるなどして風雨の影響を著しく受ける場所、冠水のおそれのある場所、水はけの悪い場所
- (5) 周囲温度範囲(-20℃~+50℃)の範囲外の場所、直射日光の当たる場所
- (6) 著しく湿度の高い場所(湿度90%RHを超える場所)
- (7) 換気・風通しの悪い場所や夏場温度が著しく上昇する場所(屋根裏・納戸・押入れ・床下等)、設置に必要なスペースが確保できない場所
- (8) メンテナンスが容易に行えない場所
- (9) 過度の水蒸気・油蒸気・煙・塵埃・砂ぼこりや塩分・腐食性物質・爆発性/可燃性ガス・化学薬品・火気、燃焼ガスにさらされる場所及びさらされるおそれのある場所
- (10) ボールなどが当たるおそれのある場所(野球場・サッカー場など)
- (11) 標高2000mを超える場所
- (12) 温度変化の激しい場所(結露のある場所)
- (13) 騒音について厳しい制約を受ける場所(寝室の壁への設置は避けることをおすすめします)
- (14) テレビ・ラジオなどのアンテナ、アンテナ線より3m以上間隔をとれない場所
- (15) 信号線は動力線と並走させたり、同一配線管におさめない
- (16) 商用電源の電圧を制御する機器(省エネ機など)との併用
- (17) 高周波ノイズを発生する機器のある場所
- (18) 電氣的雑音の影響を受けると困る電気製品の近く
PLC、DLNAなど通信を利用する機器については、相互に干渉し正常な動作が出来なくなる場合があります。
- (19) アマチュア無線のアンテナが近隣にある場所
近隣にアマチュア無線のアンテナがあるとところに太陽光発電システムを設置すると、太陽光発電システムの機器や配線から発生する電氣的雑音(ノイズ)を感度の高いアマチュア無線機が受信することで通信の障害となる場合がありますので設置はお控えください。
- (20) その他特殊な機器(医療機器・通信機器・発電機)への接続
- (21) その他特殊な条件下(自動車・船舶など)
(感電・火災・故障・電磁波雑音の原因となります)
- (22) 一括制御リモコンをパワーコンディショナ内に設置しない
故障・動作障害のおそれがあります。また、運転状態が確認できなくなるおそれがあります。

※1 塩害地域に設置する場合の注意事項

- ・ 壁取付板は、別売品の屋外マルチパワコン用耐塩害仕様壁取付板POKTP46STを使用してください。
平地置台セットを使用する場合は、アンカーボルトも耐塩害仕様品を使用してください。
- 別売品を使用して塩害地域に設置する場合は、耐重塩害仕様ではありませんので、沖縄、離島は海岸から500m以上、その他の地域は海岸から300m以上離れ、かつ海水・潮風が当たらない場所に設置してください。
- ・ 本製品に付着した塩分等が雨水によりなるべく洗い流されるような場所に設置してください。
- ・ 本製品の据付け状態を定期的に点検し、必要に応じて再防錆処理を行ってください。

9. 専売別売品

9-1 リモコン

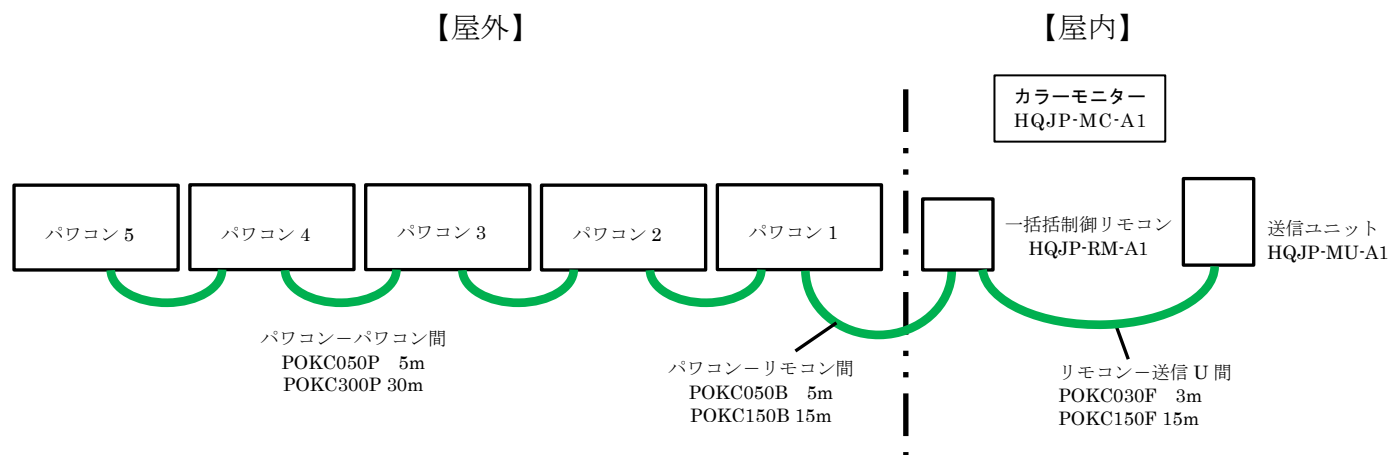
部品名	品番	用途
一括制御リモコン	HQJP-RM-A1	リモコン 1 台で屋外用マルチストリング型パワーコンディショナの運転・停止を最大 10 台まで制御します。

9-2 通信ケーブル

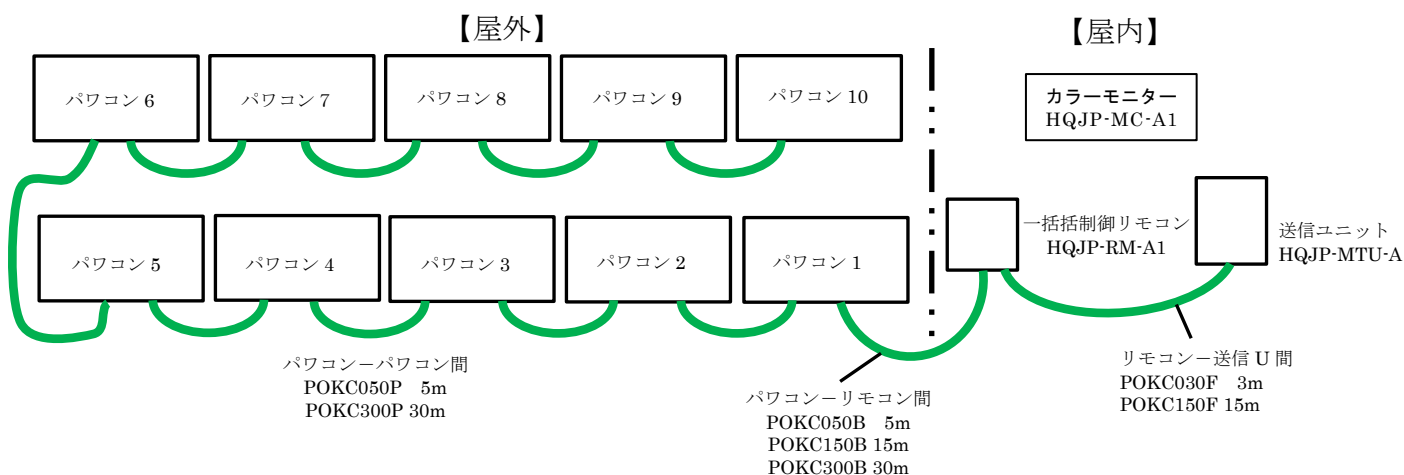
部品名	長さ	品番	用途
屋外マルチ パワコン・リモコン間ケーブル	5m	POKC050B	パワーコンディショナ本体とリモコンの接続用で 1 台目の設置に必要です。
	15m	POKC150B	
	30m	POKC300B	
屋外マルチパワコン間ケーブル	5m	POKC050P	パワーコンディショナを複数台連携し、送信ユニットを 設置する場合に、パワーコンディショナを相互にわり 接続します。
	30m	POKC300P	
屋外マルチ リモコン・送信 U 間ケーブル	3m	POKC030F	送信ユニットを設置する場合にリモコンと接続します。
	15m	POKC150F	

通信ケーブル配線図

・HQJP-MC-A1 と HQJP-MU-A1 を接続した場合

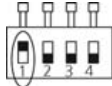




・HQJP-MC-A1 と HQJP-MTU-A1 を接続した場合



※パワーコンディショナ及びリモコンスイッチ設定により一括制御リモコンにてパワーコンディショナを 10 台まで一括制御することができます。

パワーコンディショナとパワーコンディショナ DIP スイッチ、リモコンサービススイッチ組み合わせ表

型番	1~5 台	6~10 台	パワコン側(DIP スイッチ)		リモコン側
			HQJP-M55-A1	HQJP-R59-A1 HQJP-R46-A1	HQJP-RM-A1
			S100 の 1 番(SW-SELECT) 	S017 の 3 番 	リモコンサービススイッチ 
HQJP-M55-A1	○	×	OFF	—	1 番
	○	○	ON	—	2 番
HQJP-R59-A1 HQJP-R46-A1	○	×	—	OFF	1 番
	○	○	—	ON	2 番
並列					
HQJP-M55-A1 と HQJP-R59-A1 HQJP-R46-A1	○	×	OFF	OFF	1 番
	○	○	ON	ON	2 番
HQJP-R59-A1 と HQJP-R46-A1	○	×	—	OFF	1 番
		○	—	ON	2 番

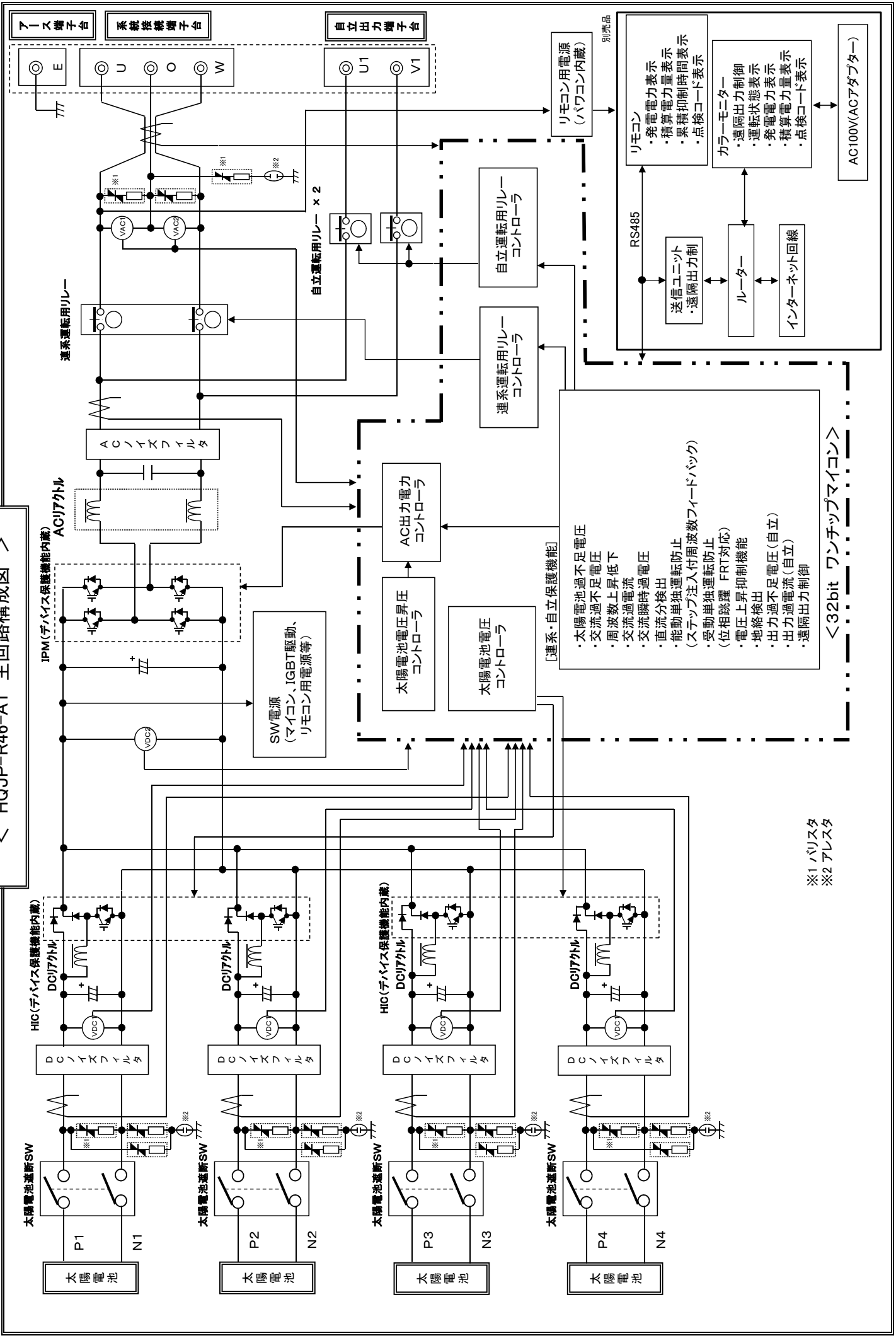
注意点

- ① リモコンのサービススイッチを 2 番に設定すると送信ユニット HQJP-MU-A1 との接続はできません。
但し、HQJP-MTU-A1 との接続は可能です。
HQJP-MU-A1 へのパワーコンディショナの接続は最大 5 台まで、HQJP-MTU-A1 は最大 10 台までです。
- ② リモコンサービススイッチの設定は、上記以外の設定をしないでください。
詳細についてはパワーコンディショナの施工説明書をご参照ください。

9-3 設置用部材

部品名	品番	用途
屋外マルチパワコン用平地置台	POKKP59ST	壁掛け設置が困難で自立設置が必要な場合に使用してください。
屋外マルチパワコン用トップカバー	POKGP59ST	設置高さが確保できないときなど、パワーコンディショナの天面に容易に手がふれる場合に、必ず使用してください。
屋外パワコン野立用架台取付板	POKTP01ST	PVモジュールの下に設置する場合に使用してください。
屋外マルチパワコン用耐塩害仕様壁取付板	POKTP46ST	壁掛け設置で柱のピッチ500mmの場合や、塩害地域に設置する場合に使用してください。重塩害地域には設置できません。

< HQJP-R46-A1 主回路構成図 >



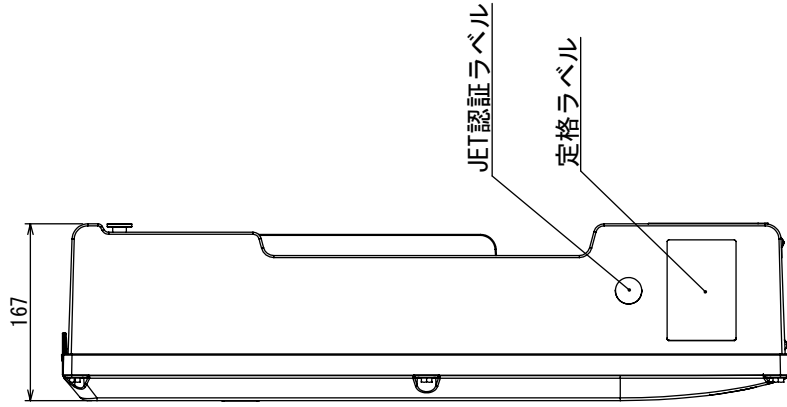
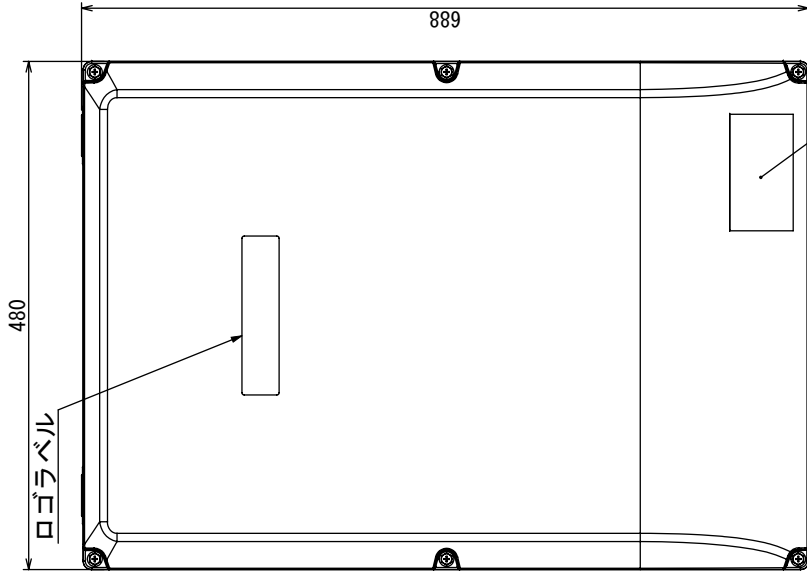
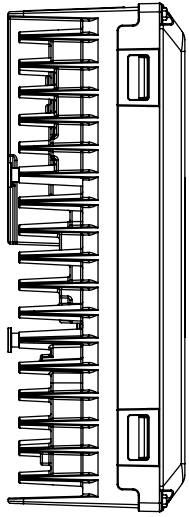
- 【連系・自立保護機能】
- ・太陽電池過不足電圧
 - ・交流過不足電圧
 - ・周波数上昇低下
 - ・交流過電流
 - ・交流瞬時過電圧
 - ・直流分検出
 - ・能動単独運転防止 (ステップ注入付周波数フィードバック)
 - ・受動単独運転防止 (位相跳躍 FRT対応)
 - ・電圧上昇抑制機能
 - ・地絡検出
 - ・出力過不足電圧 (自立)
 - ・出力過電流 (自立)
 - ・遠隔出力制御

<32bit ワンチップマイコン>

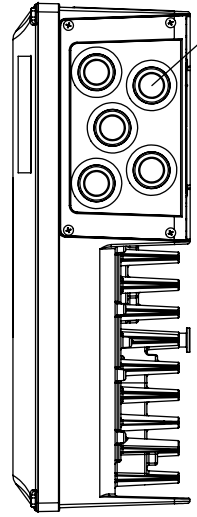
※1 バリスタ
※2 アレスタ

【外形図及びラベル配置図】

HQJB15011
2015年12月11日
17 / 18



警告ラベル



配線孔 $\phi 34 \times 5$ (キャップ付)
(呼び径 $\phi 28$ PFD管を使用)

検査成績書

パナソニックグループ エコソリューションズ社
三洋電機株式会社 エコソリューションズ部門
パワコンSBU 品質保証部

会社名： ハンファQセルズジャパン株式会社
品名： 屋外用マルチストリング型パワーコンディショナ
型式： HQJP-R46-A1
定格出力： 4.6kW
製造番号：
製造日・検査日：

総合判定	
------	--

1. 外観・構造

外観・構造・配線	判定基準	判定
	図面通りのこと	

2. 絶縁性能

測定箇所	判定基準	判定
直流入力端子～アース間	1MΩ以上であること	
交流入力端子～アース間	1MΩ以上であること	

3. 耐電圧性能

測定箇所	判定基準	判定
直流入力端子～アース間 AC1800V・1秒間印加	異常なきこと	
交流入力端子～アース間 AC1800V・1秒間印加	異常なきこと	

4. 保護性能試験

検査項目	判定基準		判定
交流過電圧 (OVR)	過電圧値	AC115V±2%以内	
	停止時間	1.0(秒)±0.1(秒)以内	
交流不足電圧 (UVR)	不足電圧値	AC80V±2%以内	
	停止時間	1.0(秒)±0.1(秒)以内	
交流過周波数 (OFR)	過周波数値	51.0Hz±0.1Hz以内	
	停止時間	1.0(秒)±0.1(秒)以内	
交流不足周波数 (UFR)	不足周波数値	47.5Hz±0.1Hz以内	
	停止時間	1.0(秒)±0.1(秒)以内	
単独運転防止 (受動+能動)	停止時間	0.2(秒)以内	
復電後の一定時間投入阻止	投入阻止時間	5(秒)以上 6(秒)以内	

5. 定常特性

検査項目	判定基準	判定
効率	定格運転にて96.0%	
力率	定格運転にて0.95以上	
出力高調波電流	定格運転にて総合電流歪5%以内	

6. 自立運転

検査項目	判定基準	判定
電圧精度	AC101V±6V以内	
周波数精度	50.0Hz±1Hz以内	